

1. A Story of an Islander – 島人のはなし

音声の書き起こしは次のページをご覧ください。

2. Our Island – 私たちの島

この絵は島の自治が確立された後に、島の中学生たちによって共同で制作されたものです。

3. Tomorrow's Leaf – 明日葉

明日葉は島原産の植物で、生命力が非常に強く、みるみる大きくなります。島には「今日刈り取ったとしても明日にはもう育っている」という言い習わしがあり、それゆえ明日葉と名付けられたそうです。明日葉は「島の草」とも呼ばれています。

4. Sweet Potato – サツマイモ

かつて島人たちは頻繁に起こる飢饉に苦しめられていましたが、サツマイモが島に持ち込まれて栽培されるようになると、以前ほど食生活に貧窮しなくて済むようになりました。彼らはサツマイモを使って島焼酎も製造しています。

5. A View of the Island (Abandoned Hotel) – 島の景色(廃墟ホテル)

6. Rounded Lava Rocks – 玉石

島の周りを流れる強い海流が島にある二つの火山が噴火した際に流れ出て固まった溶岩石を削り、玉石を作り出します。島人たちは昔からこの玉石を使って石垣を作り、頻繁に島を襲う台風から家屋を守ってきました。

7. Aloe Vera – アロエ・ベラ

アロエ・ベラはもともと製薬会社によって島に持ち込まれました。彼らはアロエ・ベラを使って健康サプリメントを製造するつもりでした。しかし、あまり利益が上からなであろうことに気付くと、アロエ・ベラを島に置き去りにしたまま、その事業から撤退してしまいました。アロエ・ベラは島の気候に順応し、今では島の植生の一部として生育しています。

A Story of an Islander – 島人のはなし

つまり、あなたはあの出来事が私たちにどのような影響を及ぼしたのかということについて知りたいのですよね？それには、まず私の状況について話すところから始めることにします。

私は大洋の真ん中にあるこの島で生まれ育ちました。島は小さいので、島人たちはみんな顔見知りです。私は本島にある大都市に住むためにこの島を出ました。なぜなら、ミュージシャンになることを夢みていたし、ここには何も無いような気がしたからです。大都市で18年間暮らして、バンドを組んで音楽をしていました。大都市での生活は刺激的でしたが、大変でもあり、自分には価値がないような気がいつもしていました。大都市での生活に疲弊を感じていたとき、私はある女性と出会い、私たちは結婚をしました。彼女には前婚からの娘が二人いました。これから新しく家族として暮らしていくことを考えたとき、島に戻る事が最良の選択であるように感じました。

私たちはこっちに帰ってきて、両親の農園を手伝い始めました。それと同時に、荒地を開墾して明日葉の栽培も始めました。明日葉はもともとこの島原産の植物なので、「島の草」とも呼ばれています。明日葉の生命力はとても強くて、今日刈り取ったとしても、明日にはもう生えてきていると言われるぐらいです。そこから明日葉と呼ばれるようになったらしいのです。とても良い名前だと思いますか？私は自分自身が農家だと思えるようになるまでに数年掛かりましたが、畑で植物を相手に働くのは本当に楽しいです。私がなにかすると、彼らは必ず私のしたことに反応してくれます。大都市に暮らしていたとき、私はこの感覚、手応えというか繋がりのようなものを感じることはできませんでした。

さて、本題のあの出来事について話すことにします。それは突然起こったのです。ある日、大都市の市政は彼らの自治体の経済が破綻したことを宣言し、この島を自治体から切り離すことを決議したと発表しました。彼らの説明によると、自治体の財務運営をこれ以上継続することができなくなり、経済的再生を図るためには、長年自治体にとって経済的負担であったこの島を切り離すより術はないとのことでした。

そのニュースを聞いて、島人たちはみんなとてもショックを受けたし、とても心配にもなりました。ですが、みんなで集まって、状況を整理して考えていくうちに、私たちは昔も今もずっと畑で育てたものや漁獲採集したものをあげ合ったり、交換することで日々の

生活をしてきたということに改めて気づいたのです。野菜や果物、海産物、乳製品、その他諸々のものなんかを。なので、あの事変というか出来事が起こってからも、私たちの生活はそんなには変わらなかったのです。

そして、私たちは徐々に私たちの先祖たちが培ってきた島の暮らし方を再び取り入れ始めました。私たちの周りには自然と調和しながら生きる方法です。島の周りを流れている暖流のせいで島はよく台風に襲われるので、ビニールハウス栽培を諦めることにしました。でも、同じ暖流が多く雨と温暖な気候をもたらしてくれるので、島では一年を通して色々な作物を露地栽培することができます。そして、私たちが欲深くなりすぎなければ、陸も海も私たちが暮らしていくために十分な食べ物を与えてくれます。

エネルギーの自立が島にとって最も重要な課題でした。技術者を海外から呼んできて、調査をしてもらったところ、この島にある二つの火山を使って島人全員が暮らすのに必要なエネルギーを供給できるということが分かり、技術者たちは島に新しい地熱発電所を造るアイデアを提案してくれました。何年にも及ぶ計画や建設期間をへて、ついに地熱発電所が始動し始めて、エネルギーを供給し始めたのです。これは私たちにとってとても大きな前進の一步になりました。

島の自治が進み、島での自給自足がさらに高まっていく中で皮肉なことが起こり始めました。それは、これまで中央がこの島にかけ続けてきた「催眠の魔法」のようなものが解け始めたということです。無言の暴力、ハラスメント、いろんなふうに言うことができると思うのですが、この島が中央よりも劣っているという感覚のことです。

歴史を通して、本島とこの島のあいだには不平等さが常に存在していました。例えば、この島は昔流刑地だったことはご存知ですか？島にはすでに私たちの先祖たちが暮らしていたにもかかわらず、幕府はここを流刑地として定め、罪人たちを島流しにしました。彼らの多くは反体制派の思想家や政治的反逆者で、社会の穢れと見なされていたそうです。私たちの先祖たちは彼らを快く迎え、また彼らは島人たちにさまざまな技術、例えば農業や焼酎作りを教えました。そんな経緯もあって、島人たちは罪人たちに対して嫌悪感情などを一切抱いていません。しかし、自分たちは穢れと見なして、自分たちの生活する場所から切り離したものをこの島に送り、島人たちにその暗示的な意義というかレッテルと共に暮らすことを強いた。この行為はどれだけの不公平さと暴力性を孕んでいるのでしょうか？

こんな例もあります。一昔前この島が人気の観光地だったことをご存知ですか？

国が高度経済成長期を向かえると、大手の広告会社はバカンスに行くことを勧めるキャンペーンを打ち、この島を「我が国のハワイ」と称して観光地として大々的に売り出したのです。たくさんのリゾートホテルやクラブ、バーなどが建てられ、とても多くの観光客がバカンスに、または新婚旅行にこの島にやって来ました。しかし、国の経済が更に成長すると、人々は実際のハワイに行くようになりました。我が国のハワイと称されたこの島は実際のハワイと競うことはできず、廃れて、ホテルや観光事業は閉業してしまいました。私が十代だったころは、よく友達と廃墟になったホテルに侵入して遊んだりしました。それらはどれも南国のコテージだったり、地中海のヴィラみたいな作りをしていました。本島の人たちは、島人や島の文化に興味を持っていた訳ではなかったのです。彼らはこの島に架空の場所を作り出し、やがてそれにも興味を失くしてしまうとこの島から去って行ったのです。そして、最後にはこの島を切り離してしまったのです。

誤解しないでください。私は誰か特定の個人を責めているわけでも、攻撃しているわけでもないのです。ただ、本島や大都市とこの島のあいだにいつも存在していた不平等さを直視して、それと向き合っていくことはとても辛いことだということを言っているだけなのです。私たちはこれまで抱え込んできた憤りや悲しみを吐き出して、果てしない抑圧の循環を断ち切ろうとしているところなのです。

本島の人たち、そして私たちでさえ、以前はこの島を中央市政に属している「離島」と呼んでいました。しかし、この島はもうその一部ではないのです。ここは私たち島人がたくさんの他の生き物たちと共に暮らす島なのです。この島は、私たちにってはまぎれもなく宇宙の中心なのです。